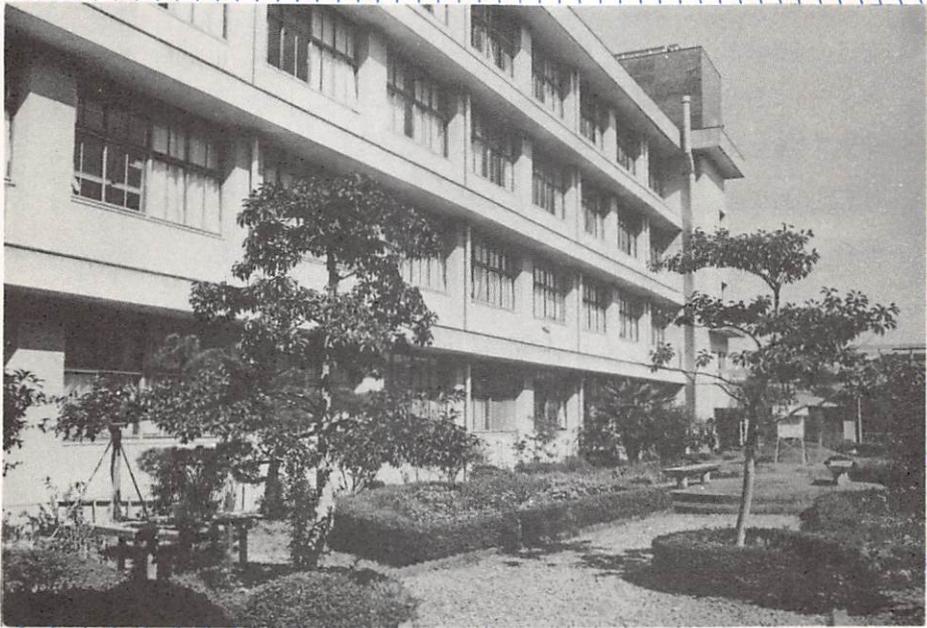


第11号
昭和61年
1986

会報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨拶	同窓会長 清 家 寛	1
一年間をふりかえって	校 長 森 岡 清	2
学 校 近 況	教 頭 竹 村 義 典	3
最近の進路状況について	進路指導部 中 山 正 彦	4
ふるさとと無線と(関東支部だより)	野 瀬 公 介	4
新卒業生歓迎会開催(大阪支部だより)	池 速 人	6
第七回高知支部総会開催(高知支部だより)	横 川 寛 水	7
回想と窪川町紹介(窪川支部だより)	川 添 泉	8
ソフトボール部活動報告		
国体出場キップかちとる	津 野 隆 伊 藤 正 孝	9
野球部活動報告		
初のベスト4進出	植 田 豊 年 吉 本 伸	10
昭和60年度決算報告		11
昭和61年度予算		11
事務局だより	事務局長 島 崎 良 一	12
終身会費納入者名		13~20
会 則		21
各種証明証の発行について		
編 集 後 記		

ご挨拶

同窓会長 清家 寛

同窓会の皆様には、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

会報「にしきうら」もお蔭さまで第十一号を発刊することができました。これも一重に事務局の先生方はじめ関係各位の御努力の賜物でございます。

本会報の発行に当りましては、事務局の先生方には、大変なご努力を賜りました。その御労苦に対し深く感謝とお礼を申し上げます。また、御寄稿下さった方々並に印刷・発送等お世話になりました関係各位に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

母校は、森岡校長先生を中心に、諸先生方が一致団結し、熱意をもって教育と指導に取り組んでおられます。従いまして、生徒達の自覚も次第に高まって来ておりますので、母校の名声も年毎に向上してゆくと確信いたしております。

このような母校の姿を拝見いたしますとき、同窓の一員として誠に心強く、うれしく感じております。次に各地同窓会の近況につきましては、それらの方より支部便りをいただいておりますので、ご覧下さるようお願いいたします。

本部並に各地・各職域の同窓会の役員並に有志

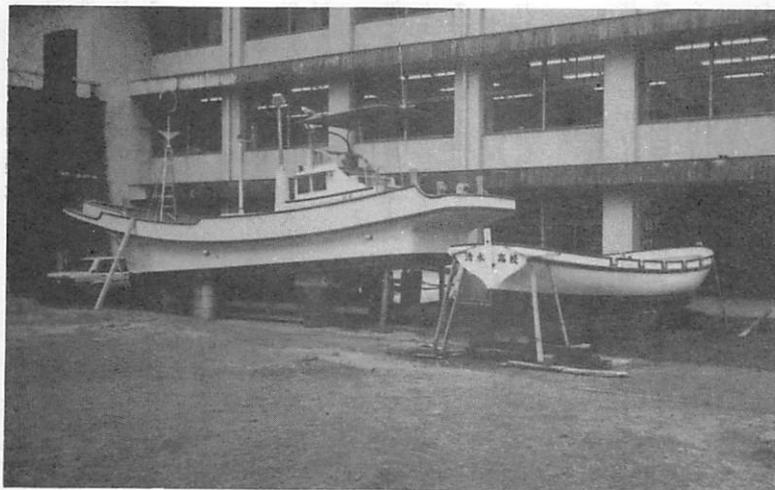
の方々には、本会の目的遂行のため、何かと御配慮いただき、常に変わぬご努力を賜わりまして、誠に有難とうございます。紙上を借りまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

母校も、五年後には創立五十周年を迎えます。

来年は、母校に於て記念行事の具体案が立案されるように仄聞いたしております。同窓会といたしましても、母校の計画に基いて、協力体制を整えてゆくことが出来ればと考えておりますので、その節にはどうかよろしく御協力の程お願い申し上げます。

次に会報9号でご案内申し上げました、糺町跡地記念碑建立のことでありますが、不肖私の不手際のため、計画が遅れ、会員の皆様にご心配とご迷惑をかけておりまして、まことに申し訳なく思っておりますが、どうか今暫らく時間を下さるようお願いを申し上げます。

終りに臨み、母校の諸先生方はじめ在校生の皆さん並に同窓の皆様方には尚一層ご健康にご留意されまして、ますます御活躍され、幸福な人生を築かれませうお祈り申し上げますと共に、母校の末永い御発展を心からお祈り申し上げます。



一年間をふりかえって

校長 森岡 清

さわやかな秋になってまいりました。

同窓会の皆様方には、増々ご健祥で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

母校に帰りましたの一年間、私といたしましてはさしたる事もできず、安閑としている自分を見るとき、いささかはやい思いをしている毎日でございますが、誠に幸いなことに、母校現職の先生方は、竹村教頭先生を筆頭に、強力な指導集団として一致団結し、情熱をもって教育に専心しておられる姿をみると、有難いことだという感謝の気持ちでいっぱいでございます。

この一年間、私にとって大変嬉しかったのは、今年度の入学試験に際し、本校への入学志願者が総計で二百九十名に達し、定員を五十名も越えたことでございます。

昭和四十年代以前の卒業生の方々には、この数字の示す意味がお分りにくいことかと存じますが、昨今、全国的に職業高校への志願者減の傾向はいちじるしく、本校もその例にもれず、ここ十数年間は、志願者の定員割れが続いていたのでございます。

今年になって久し振りに定員オーバーになったのは、工業高校が世間的に見直されてきたこともある

かと思いますが、それ以上に、前記しました先生方の熱意ある指導が、生徒達の意気を鼓舞し、須崎工業高校生としての自覚ある行動が世間に認められてきたことによるものと確信している次第です。

私は生徒達に「君達は須工の顔である」と申しております。須工を良くするも悪くするも、一にかかっている生徒達の日頃の行動がどうであるかにかかっているからだと思うからであります。

その意味からすれば、生徒達も良くやっただと賞めてやりたい気持ちであります。

次に嬉しいことは、クラブ活動が大変活発になってきたこととあります。

昨年ソフトボール部が県大会を制覇し、インターハイに出場したことは、ご記憶に新しいことと存じます。その際には、各支部をはじめ有志の方々から多額の応援のご寄付を賜わりまして誠に有難うございました。また、野球部も公式戦での勝利があり、県体では三位となり、甲子園も真近か?、と思われたのでございますが、それらの刺激を受けて、他のクラブも大変活発な練習振りで、放課後のグラウンド、体育館、格技場は、生徒で一杯の状況で、それでも曜日割振りの利用状況であります。その成果もやが

て遠からぬ将来に実を結んでくれるようにと、祈り励ましているところでございます。

一方造船クラブでは、いろいろの漁法に使用できるという多目的漁船の建造に続いて、現在は、県立清水高校の漁業科で使用するカッター(端艇)の建造に取り組んでいるなど、先輩方の長年にわたって築かれた、本校の良き伝統を現在の生徒が引き継ぎ、それを一層高いものにしなればと思う毎日でございます。

昭和十六年に創立をみた本校も、今年は四十五年となり、五年後には人生としても大台の五十周年がまいります。

学校としても今からそのことを考え、来年には、準備委員会を作り、来るべき五十周年を大切な節目と考えて、記念行事を計画したいと考えているところでございます。

その節には、同窓の皆様方にもどうか宜しくご協力をお願い申し上げます。

まだまだ社会状況のきびしい昨今でございますが、皆様方におかれましては、日頃の健康には十分ご留意の上、益々ご発展、ご活躍されますことを、心からお祈り申し上げます。

この一年間をかえりみまして、思うがままにしたいためさせて頂きました。今後共どうか宜しくお願致します。

学校近況

教頭 竹村 義典

昨年、県では坂本龍馬生誕一五〇周年記念ということで、脱藩コースを逆に、樽原から桂浜迄の都市対抗駅伝その他種々の行事が行なわれ、「土佐」がPRされました。母校ではソフトボール部が一四年ぶりに全国大会に出場、野球部も勝星を挙げ、三四年ぶりに校歌が球場に流れるようになり、その他の運動部の活躍があり、一方で服装も良くなり、落着いた学習態度は段々に好評判を盛り上げております。ソフトボール部の遠征に際しましては、同窓会より

は支部運営費まで割愛いただき、更に個人的にも多額のご寄附をいただき、誠に有難うございました。(同窓会二五万円、一般四二五万円 生徒会三万円、PTA四〇万円程集まりました)

さて、今春の卒業生は機械科六九名、造船科二三名、化学工業科三五名、電気科七三名の計二〇〇名で、卒業生総数六四八三名(女子五二名)となりました。そして、新入生では、一次二六二名、二次二二名の志願者があり、合格者は三三二名でした。久々に志願者が定員を上廻った事は、最近の工業高への志望増の傾向もありますが、学校としても非常に嬉しい事で、教職員一同頑張らねばと誓い合っております。

人事では、田所靖通先生と宮地正実先生が停年退職されました。田所先生は理科教員として赴任され、

その後、化学工業科の増設、充実、発展について来三一年の長きに亘りご盡力いただきました。

宮地先生は白石工業KKより、その技倆を認められ本校にお出でいただき、機械科実習の実技指導にその上環境整備について、二〇年間も指導とご協力下さいました。また食堂の箆尾和子さんも退職されました。箆尾さんは旧校舎の食堂創設以来二五年間、インスタント食、化学調味料の中で、生徒の皆さんの健康と味つけの為、黙々と努力されました。その他、西森昌身、松本慶明、合田直司、井上耿介先生等長年お勤めいただいた先生方がご転任になりましたが、先生方の長年のご苦勞に感謝し、益々のご健勝とご多幸、ご活躍を祈念し、お礼を申し上げます。

以下、人事異動をご紹介します。

転任

着任

岡村真雄(国)佐川高	谷口留美子(国)宿毛高
徳久善也(社)小津高	尾崎兼道(社)中村高
森岡 学(英)丸の内高	高橋貴久江(英)江の口養護
合田直司(体)高岡高(定)	久良谷昌男(体)佐川高
橋田晃一(一)安芸工	岡崎 明(一)新採
川田 環(養)若草養護	吉田悦子(養)佐川高
井上耿介(機)高知工	井上日出男(機)新採
宮地正実(一)退職	吉本 伸(機)助手新採
田所靖通(化) "	小野敬和(化)高知工
西森昌身(電)高知工(定)	川西輝道(電) "
松本慶明(一)高知工	鎌田芳一(一) "
浜田和生(国)岡豊高	秋田律子(国)期講
吉本 伸(社)須崎工	大西雅人(社)時講

武地和男(化)東高
上田時彦(化)期助
箆尾和子(食堂)退職
野村真理子(英)期講

宮地正実(機)時講
梅原俊男(一) "
西森昌身(電) "

その他、進路・PTAの井上由美子さんが結婚で退職され、六月より高橋光代さんが来られています。本年度特に女子教員が増加し、事務職を合わせると一八人となり、職員室の雰囲気が変わってきました。前記の如く部活動が活発になり、昨秋の部団では陸上、駅伝、バトミントン、サッカー、柔道、剣道、ソフトボールが優勝、バレーボール二位、卓球、庭球が三位でした。今年の県体ではソフト部が準優勝者を得て、芽がふくらみつつあります。尚ソフトボールは国体予選で優勝、本校を中心とした少年チームは四国予選で準優勝し、津野先生を監督にして、本校の七名を中心としたチームで国体優勝目指して合同練習に励んでおります。

今年には三年に一度恒例の文化祭で、十一月一六日を予定し、名物の仮装行列その他構想を練って準備に入っております。

以上の如く、新進気鋭の先生方をお迎えし、教育活動が躍進しておりますが、円高景気、ニューメディア、メカトロニクスの時代に産業界の変動が激しく、対応に迫られる面もあります。特に卒業生の進路決定につきましては、同窓会先輩の方々に、ご指導とご援助を伏してお願ひする次第です。

皆様方のご発展とご多幸を祈り、報告とします。

最近の進路 状況について

進路指導部

中山 正彦

卒業生の皆様方には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃は、本校後輩の就職等について、何かとご支援を戴きまして誠にありがとうございます。

さて、本校生徒の最近の進路状況につきまして、簡単に報告いたします。

皆様ご承知のように、十数年前、オイルショックによる景気のかげりが見えはじめ、以来求人も減少の一途をたどり、そして現在も景気の低迷が続くなかで、O A、F A化の進展、人減らし、生徒数の増加等で、高校生をとりまく就職環境はますます厳しくなっております。

また、最近の急激な円高による影響も大きく、特に輸出に依存する企業、あるいは関連企業においては事業不振で苦境に落ち入っている所もあり、今年の求人は非常に厳しい状況下にあります。既に十数社は求人なし、そして未定、あるいは求人取消し等が続出しております。

特に、県内企業からの求人は昨年以上に減少する見込みで、県内就職希望者にとっては、一段と厳しくなる状況でございます。

本年度並びに過去4年間の求人状況(会社数)

地区 年度	関西	大阪	東海	関東	中・四国	県内	計
57	91	130	59	154	45	62	541
58	69	105	35	128	48	64	449
59	68	99	49	124	35	78	453
60	86	94	55	137	31	59	462
61	79	92	41	134	26	41	413

斯様な厳しい状況下にあります。生徒は勿論のこと、私ども教職員一同も一丸となって、この難関を突破すべく、努力をする所存でございますので、今後共、なお一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

又学校の方へも、種々、お気付の点など、よろしくお願い申し上げます。

なお、次表に、最近の求人状況、進路状況、および今年の三年生の進路希望状況を掲げてありますので、ご参考になさって下さい。

過去4年間の進路状況

年度	生徒数	進学	就職		未定 その他
			県内	県外	
57	174	24	68	69	13
58	168	14	76	74	4
59	151	12	59	76	4
60	200	29	58	101	12

61年度 3年生進路希望状況

科別	生徒数	就職		進学		自家 その他
		県内	県外	大・短	専修各種	
機械	67	24	31	3	7	2
造船	23	11	5	4	2	1
化工	26	9	16	0	1	0
電気	79	23	51	2	3	0
計	195	67	103	9	13	3
		170		22		

関東支部だより ふるさとと無線と

31 電気通信科卒業

野瀬 公介

さる八月のはじめ、会社の夏休みを利用して久しぶりにふるさとへ帰って見ました。この会報の第2号に「作文」を寄らせてもらった息子も、お蔭様で

今ではどうやらクルマを動かせる歳になりましたので長距離ドライブが楽になりました。

朝はやく八王子を出発、厚木から東名高速を西へ、時速は一〇〇キロ少々。箱根越えも好天に恵まれて快調。しかし、静岡、名古屋と過ぎて名神に入り、養老を登って、大津から京都にさしかかると、かなりの渋滞になりました。首都圏と同じく京阪神もクルマで走るのは難儀ですね。

正午を少し廻って、やっと吹田にさしか、つたので、大阪で暮らしている弟を、アマチュア無線で呼出してみました。さいわい昼休み時間だったので一発で応答あり、

「JR1QQGモバイル名神、こちらはJR3BFQ、メリットファイブ、どうぞ。」

「JR3BFQ、こちらはJR1QQG名神吹田移動より、同じくメリ5。しばらくちやつたが元気がえ？ところで近頃四国へ渡るにやどのルートがええかのう？」

「そやなあ、フェリーはあちこちにようけあるけど、須磨から淡路島へ渡って、最近出来た鳴門大橋を通ってみたらえ、んちやうかなあ」

「まこと、それが良かりそうなよ、ほんならそうするけに、おんしも早ようもんで来いよ。」

「夏休みがとれたら帰るよってに、皆によろしゅう、ほな気いつけて……73」

須磨の乗り場で二時間待ってフェリーボートで淡路島へ、島の中央の出来たての観光道路で鳴門大橋へ向かいます。

雄大な吊り橋の中ほどからは、丁度、折からの満ち潮のつくり出すダイナミックな渦巻きの数々を眼下に眺めることが出来ました。

それにしても、皮肉なことに、この橋は四国への観光客を徳島県に釘づけにしてしまつて、かえって高知県への客あしが減つてしまつたとか。本州から完全に陸続きになれば、勢いづいて四国山脈を越して土佐路もぐつと賑やかになることうけあい。はやくそうなって欲しいものです。福島県出身の天野建設相の次あたりは、再び高知県選出の建設大臣が生まれそうとのうわさ、中曽根さん、たまにはたのみますよ。

吉野川を池田までさかのぼつて来ると、あたりは大分くらくらくなって来ました。

「お父さん、池田高校は野球が強いけど、須崎工高は甲子園に出て来ないねえ。」

と痛いことを言う。もつとも今年はこのあと池田は初戦で敗退したし、息子が通つていた高校だって東京予選で決勝に出たためしはない。

ところで、ふるさとも車載およびトランクに積み込んでいった無線機は大活躍してくれました。特にありがたいことに、地元の有志の方々によつて桑田山にレピーター（中継局）がつくられていて、大変便利になりました。

今までは私の実家（佐川）から、須崎へは電波はなかなか届いてくれませんでした。今ではこのレピーターのおかげで、ポケット・トランシーバーで簡単に、しかもすぐぶる明瞭に話が出来たのです。窪川や高知とは勿論のこと、はるか土佐沖の船とて

も手がるにおしやべりが可能です。

「こじやんと釣れたかや？。タライでも積んで岸へ迎えに行くぜよ」

「いかん、く、今日はサッパリちや、こんまいがびつとちやけに、洗面器で上等にかあらん」トランシーバーから流れてくるこんな会話に、多少は土佐弁のわかる息子も大笑いでした。

アメリカ・インディアンのもろしやアフリカ土人の太鼓に始まつた、テレコムユニケーションは、今やエレクトロニクスの力で全盛期を迎えておりますが、いちはやくこれを見し、わが母校に電通料を創設して下さつた当時の方々に敬意を表しつゝ、その恩恵に浴させて頂いております。

帰りのトランクには、土佐特産のニラやシントウ、それに仁淀川で獲つた鮎のドライアイス詰めまで満載して、高知港から大阪南港へと向いました。

デッキで手にしたトランシーバーを通して、お世話になった方々や、新しく知り合つたハム達と、しばしの別れを惜しみました。

掃つたら、関東支部の名簿づくりが待っています。（四歳の少女から七十余歳のおぢいちゃん、おばあちゃんまで、全国で百万人近い人達が楽しんでるアマチュア無線。ごく簡単な試験と数万円の無線機ですばらしい世界が広がります。）

あなたも始めてみませんか？

お問合せは、電通・電気科関係者または筆者あてお気軽にどうぞ。」

大阪支部だより

新卒業生歓迎会開催

26 機械科卒業

池 速 水

記録的な残暑もようやく峠をこし初秋の時節と成りました。校長先生、諸先生、そして全国の同窓生の皆様、大阪支部から謹んで御気嫌お伺い申し上げます。

昨秋以来急激な円高が進みその対応に追われ放しの一年、だった様に思います。その円高不況が定着化する一方、メリットの還元は皆無の状況であります。そのダメージは我々の職場と、家庭をも更に深く浸食するであります。

企業や個人の生残り作戦が、昼夜を問わず展開されている中で今こそ、政治の出番ではないでしょうか。

扱て、大阪支部に於ては隔年行事の支部通常総会（十一月八日開催予定）を間近にひかえております。現在山田会長以下役員により準備が進められております。特に今次総会は、「支部活性化」をターゲットにか、げ、全会員の出席を目指しております。総会条件の中から一部紹介をさせていただきます。「会員相互の融和と親密な連携」をスローガンに支部会誌「発刊の建議」であります。紙面構成は尚、検討中です。

が、勤務先のPR（相互利用）をはじめ、趣味・娯楽等身近のエピソード等々、肩のこらない内容を、と練られております。

今一つ、ごく最近（九月六日実施）の活動報告として「新卒業生観迎会」があります。

こ、両三年に大阪した同窓の若者を招待し、励と心のふれあい”を支部役員主催で行われました。

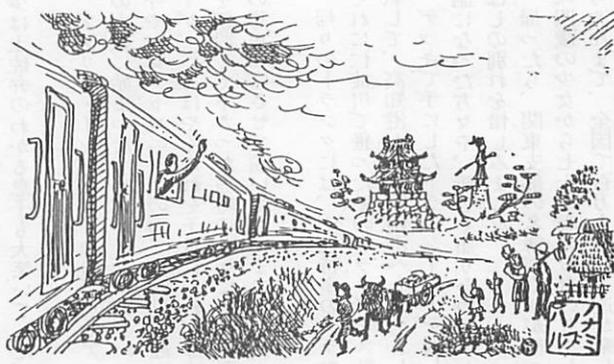
大阪・十三（ジュウソウと読みます）はクラブ・ギヤルソン（娘の村の意？）にて盛会裏に催されました。当日新卒者の参加は少数でしたが、顧問の山田弘市先輩をはじめとし、正副三会長、吉川貞造理事以下役員殆ど全員が出席されました。

若者を中心に話に花が咲き、先輩の心づかいに爽やかな笑顔でこたえたり、大先輩のアドバイスにコクリと頷く姿は土佐の好青年そのものでした。杯を交し合うこと数時、宴もたけなわとなるとカラオケの余興です。「南国土佐を……」をトップスタートに（ビデオの土佐の風景もよかった）して、松村司会者の手際上手に歌ははずみ、中にはプロ顔負けの歌唱もとび出す始末、場内拍手喝采に湧くことも数度、皆んな刻を忘れて楽しい一夜を過ごしたものでした。今回残念な参加出来なかった皆さん、来年の歓迎会には大勢誘い合っけて下さい。

本稿のおわりに、大阪支部の皆さん同窓会発展と融和をひろげるため貴重なご意見をお聞かせ下さいお待ちしております。

最後に母校の充実・発展と会員ご一同のご多幸を祈願申し上げます。

カットの制作は、新陽美術協会会員として異才をみせはじめた同窓の野並允温君にお願いたしました。（30・電気通信科卒）



1986. 9. 19. 須崎工業高等学校同窓会誌「レジオウ」のなため、新陽美術協会 野並允温

回想記 「先輩の為に、四年間は止めたらいかんぜよ」と田村先生（ダンゴさん）の言葉をかみしめながら、須崎発午後四時十二分の汽車に乗った。さつと錦をかざろうと決意してふり返ると、真紅の太陽がはげまし顔で沈んでいた。

高知支部だより

第七回

高知支部総会開催

28 機械科卒業

横川 寛水

高知支部第七回総会は、八月十三日山内会館で、母校から六名の先生をむかえ、同窓生六四名が出席して開かれ事業報告、決算報告の承認、事業計画、予算の決定、新役員を選出などが行なわれ懇親会も久しぶりとあつて、和気合々、野球部のカンパも六七〇〇円が集約されました。

総会は中西安男理事の総合同司会で始まり、去る六月逝去された故江湖俊明会計監査と物故会員のご冥福を祈り全員で黙とう。

吉岡支部長の挨拶、来賓として森岡校長先生から先生方五名の紹介と挨拶、本部同窓会から消家会長の祝詞があり、議長に横川寛水理事を選出、議事に移った。事業報告、事業計画、会則一部改正を竹内良一副会長が、会計決算、同監査報告、予算などは井上健弘会計監査が、報告、提案、これに対し地域と職場から二名の意見、要望が出され、それを含んで満場一致議案を承認、決定しました。

とくに事業計画は会員の親睦を広めるために基礎となる会員名簿の整理を重点にしました。総会準備と合わせて大半の職場から名簿の集約がされてい

すが未だのところは宜しくお願いいたします。

総会での意見、要望はN.T.T.の職場から吉田勝さんが、幹事会に出席したが大先輩ばかりで近づきにくい雰囲気一度ごりだったとの声もある、配慮してほしい。との素直な意見が出されました。

又総会は、「年一回」を「原則として年一回」に改正案が示されましたが、大津の森さんから、今まで三年一回の開催実績で今後も年一回が困難と言うことなら二年に一回とか現実的なのでも明確にすべきだ。今回の改正は是として更に検討するよう要望がされました。

同窓会員の皆さんへ

おかげさまで第七回総会が、盛大に開催されました。皆さんの協力に感謝致します。懇親会の中でも多くの貴重なご意見を承わり今後のとりくみに活かしていきたいと存じます。総会は通信費等約十数万円必要ですが、何とか、年に一度はとの気持がします。十一月には幹事会を開いて当面の具体的なとりくみをご相談申し上げたいと思います。

未熟者揃いの役員会ですが皆様の暖かいご指導とご協力をお願い申し上げます。

尚総会で事務局を「支部長宅におく」を「支部区域内におく」に改正されたことに伴ない、事務局を横川副理事長が担当し、事務所を、高知市丸の内一丁目七一二六高知中小企業協会内TEL七二一八二〇〇にしています。

高知支部役員名簿

(S61. 8.13 改選)

役名	氏名	卒年科	勤	務	先
支部長	竹内 良一	25M	(有)サンライト機工	高知市百石町2-28-38	32-1299
副支部長	岡林 幸保	28S	今井造船(株)	" 仁井田4313	47-1131
"	横川 寛水	28M	高知中小企業協会	" 丸ノ内1-7-26	72-8200
"	中西 安男	32M	東洋園芸食品(株)	〒782 土佐山田町戸板島	08875 3-2111
会計	井上 健弘	27M	高知ダイハツ販売(株)	高知市北本町4-2-37	83-5185

窪川支部だより

回想と窪川町紹介

21 機械科一種卒業

川 添 泉

歳月の流れはまことに速いものです。

第二次大戦も末期、我々学生は国民総動員令の元に、祖国の勝利を信じ各重需工場に学徒徴用され、青春のすべてを懸けて頑張った昭和二〇年暗くて、さびしい暑い八月当事が思い出されます。あれからはや四十一年の刻の流れ経過を見たわけであり、私共戦時下の学生は専門的な知識を修得する時もなく、戦後動乱の社会へ巣立った状況であり、従って当初の目的と異った方面への就職を余儀なくされた卒業生の多かった時代でもあったわけです。然し乍ら我々の先輩同期諸兄は其の後の実社会に於いて精心努力を重ね各職場の中核として活躍し今日すでに定年を迎え第二の職場にて頑張っておられる便りをさきく度、胸中感慨一入の想いを至すものであります。

私も上記時代背景の中で昭和二十二年木材業界に入り其の後昭和三十三年春窪川町に居を構え定住致しました。比の間種々と字余曲折を経て、四十年近い経過と成ったものであります。御案内の通り窪川町は西日本最後の清流と云われる四国第二の大河四

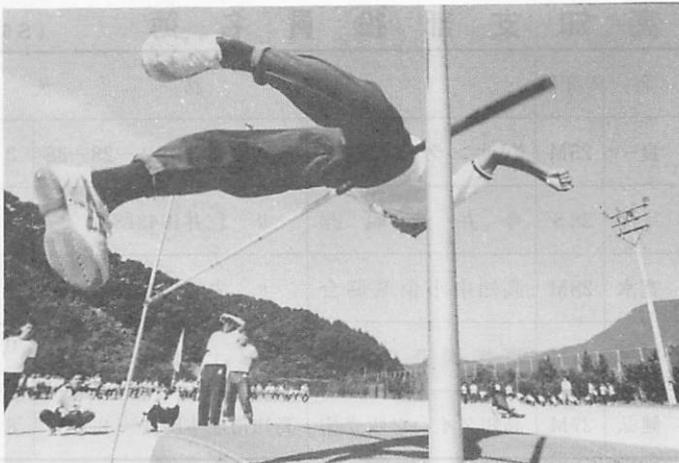
万十川が東西に流れ標高二百四十米に位置し通称、土佐の軽井沢と云われて居ります。冬は非常に寒く春から夏秋にかけては温度が低く朝夕は大変涼しく又霧の多い高原の別天地であります。町内に特筆する産業はなく農林業主導型の地域であり特に昼と夜の温度差が高く霧の降る関係が、美味い仁井田米、そして全国的に有名な生麦の特産地であります。

現窪川町長は私共と同期卒業の藤戸進氏であります。此れと云った産業のない窪川町を中心とした此の高幡地域社会経済発展の起爆剤として四国電力窪川原子力発電所の誘致を政策にかけて過去幾度かの政争の中で頑張つて居られる事はすでに御承知の事と思ひます。

現在は世界のエネルギー事情も様変りを致し円高原油安の状況下では有りますが、何時迄も此の様な情勢が続くものとも考えられません。近い将来必ずや国県町一体と成った、エネルギー基地建設、大事業が実現するものと確信を持つと同時に窪川町々政百年の大計を間違わない為に正しく力強い協力を推進致してゆき度いと考へて居ります。一方レジャー面では清流四万十川鮎の火振漁があり、又車で10分東又八千数にゴルフ場高南カントリークラブがあります。起伏に富んだ山丘コースで、アップダウンは少しきついですが、グリーンファイも安く我々初心者には気安く利用出来るクラブであり、ストレス解消健康保持のため楽しくラウンドを重ねて居ります。

以上とりとめのない雑文列記致しました。御来町の節は是非御立寄り賜り度いものと思つております。結びにあたり同窓生諸兄の今後より一層の御健勝御

発展を心から御祈念申し上げまして窪川支部より
況報告と致します。



ソフトボール部

活動報告

国体出場キップかちとる

監督 津野 隆
顧問・コーチ 伊藤 正孝

この一年の男子ソフトボール部の活動状況を報告させていただきます。

本年度のチームは、インターハイ出場チームのレギュラー4名を含む3年生7名、2年生4名でスタートしました。11月の新人戦では思うような成績をあげることができませんでした。11月の経験から自分たちも『やればできる』ということを感じて苦しい練習に励んで来ました。春には1年生10名も加わり、県外チームとの試合により技術、精神両面の向上をはかるために参加した関西地区男子ソフトボール研修会では、3位に入賞しました。

いよいよシーズンに入り、春期大会では、工専、高知工業を破り準々決勝に進出しましたが、大月分校に1：2と惜しくも破れてしまいました。この大会から得られた反省点を元に土・日曜日も返上しての練習に励み、ふたたびインターハイを目指して県体に望みました。一回戦、西高校を12：3、二回戦中村高校西土佐分校を6：0、準々決勝、大正高校を1：0、準決勝、高知商業を9：2でやぶり、決勝戦に望みました。決勝戦は昨年と同じく学芸高校

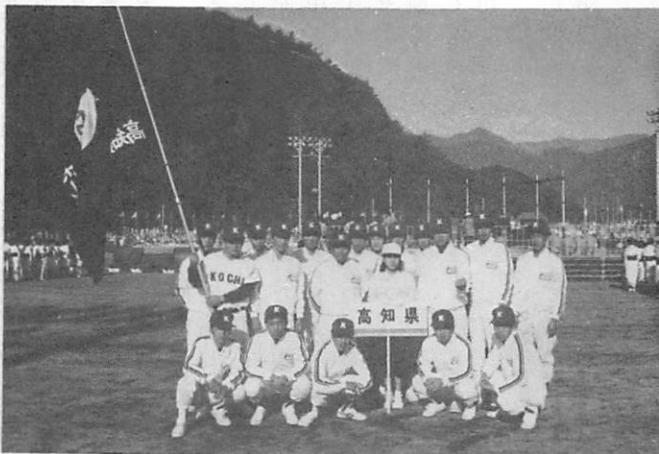
との対戦です。両チームともお互いに一步も譲らず6回まで0：0の大接戦でしたがついに一点を取られ、準優勝となり、四国大会に出場する事になりました。四国大会は、徳島県代表の貞光工業高校に4：5と敗れました。

七月の末には、県体での雪辱を期し、3年生の最後の試合となる国体予選に臨みました。窪川高校を3：2、準々決勝、伊野商業を5：0、準決勝、高知商業を3：0で破り決勝進出です。相手の安芸高校は、ねばりづよいチームでしたが、一点ずつ得点を積み重ね、4：2と下し念願の優勝を飾る事ができました。この結果本校を中心として高知県選抜チームが編成され、監督他選手7名が選抜されました。8月30日に行なわれた四国予選では、徳島、愛媛を破り秋の国体（開催地・山梨県）に四国代表として出場することになっています。選抜チームのため全員出場するわけにはいきませんが、選ばれた選手は須崎工業高校の名譽をかけ、高知県を代表する選手として頑張つて来てくれると思います。

さてソフトボール部の状況ですが、3年生も引退し、2年生4名、1年生10名の計14名での新チームづくりになっています。まだまだ課題も多いのですが、今年以上のチームを目指して練習に励んでいます。

また、試合に勝つことだけを目標とするのではなく、挨拶等の礼儀や、団体競技を通じての規律やチームワーク等、人間的な成長も重視し、輝かしい伝統を誇る本校ソフトボール部として恥ずかしくないように努力したいと思えます。

今後とも他クラブ同様 皆様方のあたたかいご声援をお願いします。



野球部活動報告

初のベスト4進出

部長 植田 豊年
監督 吉本 伸

須工野球部のこの一年間の活動報告を、お知らせ致します。夏の大会で三十四年ぶりに一勝することができ、その勢いで、新チームを編成し、八月十三日に大方商と新人戦の予選を行ない、六対三で敗れ重苦しいスタートをきりました。

秋季四国大会県予選が十一月二日強豪明徳と一回戦に対戦しました。自軍は、二回表寺田(須崎中)のライトポール際に打ち込む本塁打で先制し、続く四回にも長尾(窪川中)が敵失で出塁し、関(土佐南)の二塁打で、貴重な追加点を挙げ、いいペースで前半を終了し、追加点を後半とればと思つて矢先、五回裏七番に本塁打を打たれ、七回六番にも本塁打を打たれ同点となり、八回一死後三塁打とスライズで決勝点をあげられ、三対二で惜敗しました。しかし、嬉しいことに大会終了後、高知県選抜チームを編成し、中国遠征メンバーに関忠彦投手が選択され十二月下旬に出発し投打に活躍し帰高致しました。このことがチーム内にいい刺激をあたえ、冬のトレーニングに尚一層力が入り、来春に期待をつなぐことができました。

春季四国大会予選が三月三十一日大方商と対戦しチャンスに打つことができず、三安打で完封負けをしました。それ以後打力アップに重点をおき、県体

夏の大会に力を注ぎました。四月新入部員が二十二人と大量に入部し、いままでにない活気を感じ、これからが楽しみにになりました。

五月二十四日より県体が行なわれ、一回戦高専と対戦し、四回まで両軍無得点で迎えた五回、二安打と犠打、犠飛で一点を先取りし、七回二安打と盗塁で二点、九回スライズでためおしの一点をとり、関投手が好投し五安打一点でおさえ、四対一で初戦を飾ることができました。二回戦は、地元の須崎高と対戦し、四回裏ノーヒットで二点を先取、五回一死後安打で出塁した津野(窪川中)を一塁におき、松田(土佐南)が本塁打を打ち二点、六回には青木(上分)の安打、犠打と相手失策により一点を追加し理想的な点の取り方でありました。須高を三安打一点で押さえ五対一で二回戦を勝利し、翌日西高とベスト四をかけ対戦いたしました。初回二安打で二点を先攻され、立ちあがりから苦戦をしいられました。四回、松田が二試合続けてライトへ本塁打を放ち、押せ押せムードになり、五回に一点を入れ同点にし一気に須工の試合になると思われましたが、西高に八回一点を追加され、またも先攻されましたが、九回裏、二塁打とバンド安打で同点とし、延長戦になり十一回裏、一死満塁に寺田(須崎中)がサヨナ

ラヒットを打ち、四対三でサヨナラ勝ちをおさめることができました。準決勝の相手は明徳でした。秋季大会で三対二で惜敗しているのので、ナイン一丸となって臨みました。一回表二死後松田の三塁打と敵失で一点を先取しましたが、四回、八回に一点づつをとられ二対一でまたも惜敗しました。が、県体ベスト4進出ははじめての事で、選手自身にはいい刺激となり、夏の大会までの間充実した練習ができた。大会への手答えを感じました。

選手権は七月二十一日、大方商業との対戦でありました。初戦突破で勢いにのりたいゲームでありましたが、再三のチャンスをもにできず、五回一点を先攻され、いよいよ最終回になり先頭安田(佐川中)が右前打、次打者の送りバンドが、ダブルプレーになり二死後、松田が内野安打で出塁し粘りをみせました。三球目に盗塁をこころみましたが、間一髪アウトでゲームセットになり、残念ながら、去年に続き夏の大会一勝することができずに悔しい思いになりました。

新チームを結成し、大会でのいい教訓をもとに一年から出直して、毎日七時すぎまで練習に取り組んで頑張っています。

八月の高知支部総会でご寄付を頂き誠にありがとうございました。今後とも皆様方の御支援、御声援をよろしくお願い致します。

昭和60年度決算報告書

61. 3. 31

費目		金額(円)	摘要
収入の部	前年度繰越金	168,118	
	入金	410,000	2,000円×205名
	特別会計利息	733,872	慶協 710,872 四銀 22,000
	雑収入	11,037	普通預金利息・名簿代他 寄付
	雑収入	6,000	
	計	1,329,027	
支出の部	会議費	0	
	事業費	700,920	開校記念品代 会報発行費 52,500 会調査費 614,420 宮地前校長肖像写真費 19,000 切手代・通話料・その他 15,000
	通信交通費	20,940	
	事務消耗品費	0	
	慶弔費	191,700	ソフト部遠征補助費
	支部配分金	250,000	各支部長の承認を得て「クラブ振興費」として支出
	雑費	18,318	振替払込料他
	計	1,181,878	
入出		残	
1,329,027円 - 1,181,878円 = 147,149円			
＜特別会計＞			
費目	金額(円)	摘要	
前年度未納立額	16,770,000		
本年度納入額	2,370,000		
計	19,140,000		新卒1,650,000 旧卒720,000

昭和60年度会計事務について

諸帳簿及び証書類等により監査の結果金額その他については相違なく「預金通帳」
適正に執行されている。

昭和61年6月2日

監 査 坂 本 臣 三 夫 (印)
" 下 元 征 夫 (印)

昭和61年度予算

費目		金額(円)	摘要
収入の部	前年度繰越金	147,149	
	入金	462,000	2,000円×231名
	特別会計利息	710,000	慶協 688,000 四銀 22,000
	雑収入	5,000	
	計	1,324,149	
支出の部	会議費	30,000	
	事業費	718,000	開校記念品代 会報発行費 54,000 会調査費 629,000 予備費 25,000 予備費 10,000
	通信交通費	80,000	切手代・通話料・その他
	事務消耗品費	40,000	コピー代その他
	慶弔費	100,000	
	支部配分金	292,800	関東 28,200 中京 20,800 近畿 52,400 高知 77,400 須崎 105,400 幡多 8,600
	雑備費	20,000	振替払込料その他
	計	1,324,149	
＜特別会計＞			
費目	金額(円)	摘要	
前年度未納立額	19,140,000		
本年度納入目標額	2,000,000		
計	21,140,000		

終身會費納入者名

昭和六十二年十月二十八日現在

昭和十八年

昭和二十年

昭和二十一年

昭和二十二年

昭和二十三年

昭和二十四年

昭和二十五年

昭和二十六年

昭和二十七年

昭和二十八年

昭和二十九年

中平 万年

田邊 博造

橋本 忠行

矢野 魚雄

西川 嘉明

木下善二郎

坂本 忠男

田村 耕吉

竹村 昌孝

高橋 巖

中岡 当明

廣田 四郎

清家 寛

長山 象一

山中 幸樹

山田 弘市

海地 清幸

前田 托造

渡辺康太郎

門田 正猛

下村 晴宏

島崎 憲一

平井壽之進

片岡 命長

近森 和夫

張 泗海

甲藤 茂

大藤 益富

森下 春茂

岡崎 範夫

山中 正義

谷 芳樹

島崎 茂

川添 泉

廣瀬 理

大藤 益富

森下 春茂

岡崎 範夫

山中 正義

谷 芳樹

島崎 茂

竹内 正一

野瀬 勇

吉本 静夫

福島 孝臣

堅田 雄男

中平 利夫

松浦 定雄

加藤美代治

梅原 溢男

島岡 音喜

須内 鹿雄

竹村 壽範

中野 義則

森 峯雄

谷 博之

矢野 象一

吉岡 豊延

寺田 郁雄

金子 昭平

西森 雄藏

川越 義雄

上東 佐吉

柳原 民男

藤原 良一

下村 昇

北川 良輔

高岡 正幸

西内 豊

福永徳七郎

横田 雅範

大崎 静幸

近森 久重

川村 忠孝

堀見 和三

井上 健弘

田村 泰雄

田村 泰雄

堀見 和三

井上 健弘

田村 泰雄

若瀬 童雄

中川 秀市

竹下 哲男

古味 忠孝

上田 智明

橋本 盛幸

北村 靖

松本 忠雄

矢野 勝郎

松本 忠雄

正延 善彦	谷岡 正春	松田 豊	細木 芳文	田所 松正	坂井 譲	矢野 晴英	西森 幸雄	竹内 稔	横山 傅	角西 信義	安並 利益	戸田 修史	岡本順次郎	渡辺憲太郎	西森 行雄	高野 照男	上田 浩俱	江淵 俊明	矢野 保照	野並 充温	武政 博明	上田 善右	長 信仁	吉村 正策	中野 義明		
野瀬 公介	山下 英作	渡辺 泰信	岡添 光彦	岩本 和子	小原 博信	矢野親一郎	齊藤 祐一	弘田 貞夫	福井 繁次	宮崎 英雄	在木 忠正	松村 朱美	三本 和男	二宮 安雄	大崎 光春	二見 政雄	三宅 世起	松下 留吉	窪田 邦彦	塩見 崇敬	植村 豊樹	中西 安男	松村 崇史	植田 幸子	奥田 光男		
木村 論	柳瀬 忠勝	佐々木善喜	岡林 博章	梅原 道夫	岩本 和子	中井 幸増	江口 長靱	市川 精亮	西森 寿彦	氏原 和弘	弘松 章志	堅田 隆幸	沖本 毅	田村 堯弘	西村 仁利	竹村 元宏	山崎 吉広	松崎 留吉	窪田 邦彦	塩見 崇敬	植村 豊樹	森光 敬三	北添 栄	千頭 英喜	橋田一三六	松井 捷輔	
中村 早夫	菅野 佳紀	福井 幸正	西森 昌身	西森 昌身	山崎 光	中井 幸増	江口 長靱	市川 精亮	西森 寿彦	氏原 和弘	弘松 章志	堅田 隆幸	沖本 毅	田村 堯弘	西村 仁利	竹村 元宏	山崎 吉広	松崎 留吉	窪田 邦彦	塩見 崇敬	植村 豊樹	森光 敬三	北添 栄	千頭 英喜	橋田一三六	松井 捷輔	
中平 俊郎	高橋 照之	武森 幸利	山崎 康夫	山崎 康夫	山崎 次男	山崎 次男	岡 哲雄	岡 宏	岡本 皓男	橋田 宏	明神 任則	大窪 英稻	島岡 栄夫	竹内 淳悟	中川 浄	岡田 慶助	中山賀一郎	橋田 昌和	大崎 正壽	高橋 昇	佐々木利昌	豊島 昌男	山下 幸三	西川 嘉昭	柳本 正一	中川 勝	
鎌倉 政清	大原 勉	山崎 康夫	山崎 康夫	山崎 康夫	山崎 次男	山崎 次男	梅原 郁男	山下 義郎	森田 淳一	山下 義郎	山下 義郎	森田 淳一															
田村 賢児	千頭 且典	下川原 章	江口 文夫	西森 橋夫	上岡 利夫	岡崎 伸高	清水 繁雄	島津 公夫	村上 義榮	中村 正博																	
野瀬 皓二	梅下 弘育	上野 一男	福井 通	植田 寿一	光原 直己	竹内 正英																					
岡林 敏雄	小島 康弘	井上 耿介	荻部 幸子	山本 勝喜																							
野村 直信	浜口 博	崎山弘太郎	石黒 明洋	新田 和男	前田 文雄	内岡 肇	高橋 哲夫	浜崎 満良	片岡 正利	久川 章	大崎 豊明																

山下 忠男	田村 和嘉	中村 徳文	森 正彦	山本 照幸	在木 勇	笹本 充範	西森 英夫	岡林 隆	玉川 良一	池田 達雄	長谷部俊夫	渡辺 正俊	正木 長生	木村 正雄	津野 隆	昭和四十一年	片岡 親嗣	武田 秋人	岡林 謙三	市川 文雄	上田 康文	松浦 正	真辺 晃	森沢 文男	岡 弘	合田 元宏
高木 良介	下元 栄治	西森 広利	池田 取一	竹崎 貞男	昭和四十三年	津野 啓二	笹岡 正俊	笹岡 正俊	吉本 順一	真辺 義春	中居 一郎	岡村 正雄	田村 司	小松 義治	下八川哲三	昭和四十二年	竹内 正男	片岡 謙三	佐々木浩二	北川 寛	林 和夫	池 徹	黒岩 幸生	梅原 康男	鈴木 栄	
	若林 幸吉	吉永 博之	藤川 幸孝	岡村 利康	松田 修二	山本 修	西森 英一	石村 秋実	玉川喜久夫	高橋 保雄	中野 正人	松浦 育男	下元 彰	西森 房司	西森 房司	昭和四十四年	和田 敏夫	真辺 修	今伸 六男	広瀬 直記	味元 俊一	金子 誠	谷岡 直三	山本壮一郎	山下 博	
小野 豊	佐々木義信	藤原喜久男	昭和四十七年	戸梶 嘉彦	日浦多津夫	蛭子 淳司	橋田 辰巳	横山 寿彦	佐竹 節男	栄 正彦	小田 道男	黒石 明義	山崎 敏夫	山崎 敏夫	箭野 文明	中屋 保	岡本 直美	片岡 福彦	山本 道明	野島 鶴一	横島 弘明	岡村 謙治	小野 道明	下谷 吉和	昭和四十五年	
森田 賢一	林 順一郎	昭和四十九年	中山 繁雄	津野 速男	橋田 洋二	田村 安男	谷脇 清次	三宮 幸弘	前野 秀忠	井上 文男	出来 安幸	広瀬 健三	堅田 壽幸	西山 庸一	和田 拓夫	小田原孝幸	小田原孝幸	宮崎 努	森下篤二郎	宮本 耕二	尾崎 亮一	国沢 明正	梅原 正博	古谷 好文	中野 正興	
中野 友喜	田村 正	昭和五十一年	石田 稔	上田 慈良	吉田 安明	安岡 浩三	村田 徳治	仲村 茂博	篠原 晴夫	中城 鉄夫	柳瀬 幸宏	大崎 一祥	中村 孝	弘田 哲也	岡村 佳洋	吉岡 碧海	大塚 敏	氏原 健一	近森 裕司	古谷 恭啓	黒田 一福	森下 章博	浜田 信男	石本 正士	中井富士夫	
小野三千雄	大崎 孝広	田部 伸彦	浜口 順一	西村 信之	中屋 忠	石川 早男	丸岡 俊一	松岡 貴也	西森 新市	高橋 豊	川村 健次	柳瀬 幸宏	松本 晃	西村 豪	谷岡 孝也	宮脇 潤正	西村 嘉泰	川上 徳男	岡田 益穂	岡 知秀	大崎 昌則	黒田 一福	森下 章博	本田 誠二	竹崎 実	
吉岡 利尚	山中 憲一	永原正一郎	土木 雅人	関 泰平	池田 和正	川村 公孝	昭和五十三年	芝 高広	門田 昭二	池田 幸夫	橋田 春男	海地 篤	橋田 哲臣	藤田 友二	山下 任陽	山岸 孝益	中山 安亀	遠山 正司	小橋 啓亮	岡田 郁夫	市原 正浩	山下 一夫	森光 輝夫	西田大喜夫	小野川浩史	
大崎 広明	大野 孝雄	山崎 晋司	松本 健次	桑原 真一	森崎 淳二	中沢 和明	中野 俊彦	北添 俊広	山中 光典	片山 幸広	藤田 英雄	式地 秀明	藤岡 大成	高鴨 覚	山中 栄	吉本 一仁	政岡 勝	浜田 清志	野島 勝行	国沢 成雄	北沢 文広	川村喜一郎	井上 浩	明神 直昭	久万 道夫	
明神 裕和	松本 伸二	又川久仁夫	川西 耕二	岡崎 崇文	山添 岳広	西本 勲	小野山慎一	門田 幸久	浜田 壮介	安並 朋宏	宮谷 文雄	片岡 幸彦	足達 昭一	山本 義仁	田中 正博	堅田 裕一	岡田 知久	山崎 明	北添 裕生	種田 裕二	宮地 亮佐	岡添 慎一	細木 新	林 稲男	坂井 民夫	

楠瀬	高橋	奥田	久岡	朝日	橋詰	広畑	津野	明神	南部	芝	福井	明神	堅田	山崎	高橋	岡本	中原	海治	長山	斧山	間嶋	嶋崎	大崎	岡崎	浜口	尾崎	浜	
聡	望	和久	輝男	幸年	学	浩幸	修	正文	洋稔	由喜	哲人	達也	浩二	清	孝平	広之	明雄	和男	勝彦	喬	和久	勉	幸雄	明	修司	保雄	正人	
岡村	市川	柏井	乾	岡林	森光	山崎	岡山	片岡	保木	奥崎	江淵	大崎	西岡	竹林	西村	吉川	岡村	浜田	高橋	森光	高橋	松尾	山本	山口	井上	大原	矢野	
賢作	清郎	啓助	幸一	博幸	出	幸利	計宏	雄児	利也	秀次	功一	好一	三三	一雄	裕友	修	徹	俊次	清	孝雄	清助	満	澄志	健一	祐二	勝俊		
浜田	山添	小松	弘田	武内	片岡	宮崎	佐々木	山崎	馬場	馬場	谷脇	田所	隅田	竹内	市川	田中	渡辺	三井	岡林	山崎	田中	森光	昭	朝比奈	安藤	今橋		
勝章	勇一	和弘	耕一	秀樹	孝憲	さよ	木敏幸	優	宣光	俊光	直人	久善	仁	二三	隆弘	彰	明	修	幸治	稔	健喜	俊彦	五十四年	祐介	輝美	秀広		
大崎	大原	坂本	佐竹	佐竹	田辺	道家	徳広	南部	間	浜口	林	林	山崎	島崎	植田	植田	梅原	梅原	吉本	市川	井上	梅原	堅田	門田	川沢	島崎	柴	田上
賢二	英二	定浩	利也	義敦	金造	保次	明良	和寿	雄二	芳文	智一	弘茂	永正	栄彦	秀徳	浩明	公浩	弘	忠則	敦志	健一	俊男	和博	英二	のり子	信一	叔伯	重浩
長門	中村	鍋島	西森	西村	橋田	林	林	松元	松元	森光	山口	山崎	島崎	植田	植田	植田	梅原	梅原	梅原	市川	大川	奥崎	尾崎	片岡	坂本	高橋	高橋	谷口
和宏	由起夫	一弘	幸二	文広	典久	伸一	尊文	謙二	志郎	須賀男	司	正広	剛	孝成	正徳	博司	弘	本自	良裕	稔	信夫	浩助	晴登	博	強	信好	久則	
谷脇	津野	戸梶	中越	浜田	林	堀川	前田	松本	宮地	山岡	横山	吉本	岡本	小田	桑瀬	笹岡	高橋	谷中	田村	辻本	中岡	中野	長山	西地	松田	森光	矢野	
徳一	光男	浩伸	隆男	俊彦	美利	修一	充由	勝	立憲	秀晃	良仁	浩	伸次	啓二	正暹	幹男	利男	久良	信行	真司	朗徳	孝雄	弘行	繁広	靖弘	隆浩	宝宏	
山本	上田	衣斐	大野	小野	堅田	北村	笹岡	芝崎	須内	竹内	谷	田部	中田	長山	長山	西田	松浦	松田	明神	森	吉田	石田	岡本	堅田	佐藤	高橋	竹内	
義文	育生	則彦	一宏	利耕	浩司	幸浩	義男	裕二	貢	智昭	信弥	貴久	正造	孝文	基	浩	定男	俊市	孝郎	一彦	智欣	典久	光弘	孝光	和也	広志	優	
田中	田村	中谷	中村	西	柳本	山川	沖吉	刈谷	須内	青木	青木	背木	麻田	井関	伊藤	大崎	尾崎	甲藤	酒井	三宮	柴	高橋	高野	谷脇	近沢	辻	中山	
登美夫	一彦	智行	澄夫	元秀	孝広	心一	孝文	俊英	貞	伸二	富雄	富雄	正志	直道	広幸	信彦	明彦	章人	則彦	隆	広信	唯夫	幸夫	一仁	章友	安得	茂	
長山	西森	西森	能見	野島	浜崎	浜田	広瀬	松浦	溝淵	宮脇	森田	森田	山崎	山本	渡辺	吉岡	大崎	沖	片岡	刈谷	国沢	桑原	佐々木	下元	高木	高野	高野	
誠	治夫	博章	清志	栄生	敏夫	幸一	幸男	伸人	健夫	一郎	一宏	保	重光	敏幸	真佐人	稔	守	博祐	和彦	悟	智	智	義晴	淳史	正充	秀一	浩二	
辻本	中田	長山	梨	西森	西森	西村	能見	野島	松田	森	森	山崎	山本	矢野	矢野	横山	渡辺	石田	今橋	植村	下元	高橋	西村	西森	溝淵	森	裕	
隆裕	勝利	勇	千春	徳幸	正忠	佳典	圭至	慶次	英樹	順一	孝夫	光彦	隆雄	明	健二	智英	邦博	道良	広高	秀幸	秀夫	祐司	公一	寿龟	富成	建志	裕	

山岡 正人	山岡 真司	山脇 忠司	大川 豊	小田 忠志	織田 修蔵	黒原 靖彦	中内 正知	藤本 修	松浦 貴彦	松田 典久	松本 正広	森下 昭仁	八木 俊介	市川 和男	大崎 幸一	大崎 始	大野 造	岡 弘明	岡村 三男	尾崎 義喜	片岡 弘幸	木下 譲二	楠目 満	近藤 寿昭	酒井 隆	坂本 卓	竹内 信		
竹田 宗市	田村 明彦	中山 浩至	橋田 道明	浜田 和典	浜田 幸俊	久岡 孝善	細川 源井	山崎 和久	山下 和己	岩佐 敏弘	大崎 真一	会所 辰男	門脇 一昭	津野 孝司	中平 昇	中脇 兄志	浜田 光啓	久原 三生	壬生 一光	明神 良房	広瀬 和弘	山本 順一	中村 一也	宮本 淳一	山中 謙二	下田 敏彦			
昭和五十六年	青山 寿行	麻岡 雄介	今城 秀和	大崎 正二	岡林 靖	酒井 悟	笹岡 巖	笹岡 義人	高橋 賢治	高橋 隆彦	竹村 勇政	武吉 秀文	谷脇 政喜	道家 丈典	徳広 和則	中内 光親	中村 智彦	中山 則夫	仁尾 常洋	西森 忠広	橋田 孝幸	長谷川 隆	堀部 正一	松本 誠二	水口 広幸	森田 和幸			
山下 学	吉門 英喜	出間 文男	入交 昭典	片岡 宗温	笹岡 久稔	下元 安弘	白木 賢二	高橋 義浩	竹崎 裕	武市 恵介	田村 英之	戸田 雅彦	中 剛彦	中屋 隆	南部 孝之	西村 太志	西森 健一	野本 博文	橋田 信一	浜口 弘	細木 正仁	松本 健三	宮崎 信一	宮地 二男	森 隆志	森沢 宗幸			
森本 一久	川淵 章	山崎 敏弘	山下 正一	依光 広悦	岡崎 光臣	楠岡 章弘	小田 浩司	下元 貞	田中 誠治	西川 敏久	政岡 幸喜	味元 賢一	山本 浩士	市川 真貴	尾崎 達也	斉藤 直文	竹内 利夫	谷 隆宏	田村 隆憲	藤原 和雄	毛利 圭志	吉村 喜富	小西 完司	岩崎 孝明	大石 高志	堅田 良一	川上 稔明		
坂元 行広	笹岡 敬助	佐々木由男	沢村 俊二	下元 丈児	高橋 京三	津野 敦	寺田 栄一	中島 益男	中平 隆雄	中村 泰彦	西村 浩二	野島 景介	橋田 敏春	林 憲之	福本 祥	松田 昌士	真鍋 斉	森 和彦	山岡 久二	山崎 幹夫	大西 隆晃	奥田 裕二	楠瀬 幸則	坂口 進	鳴内 孝志	田井 厚志	高橋 秀典		
竹内 宏充	中平 英児	橋本 孝	広瀬 英仁	堀 錠二	松田 善仁	森 傑	里見 菊也	昭和三十七年	池上 浩之	池田 英二	井上 一秀	今井 弘信	打井 利伸	大西 博文	岡崎 節夫	斧 秀一	片岡 徹	堅田 勇	川重 隆博	川瀬 英明	酒井 俊彦	笹岡 伸雄	高橋 範記	田島 正彦	谷 和史	谷 利彦			
谷脇 賢二	田元 清昭	土居 隆	鶴島 孝典	永原 貢盛	中脇 三隆	中山 民雄	西森 浩二	西森 弘	野村 明久	浜口 哲也	古谷 広明	明神 正徳	森田 兼司	森下 直哉	森 章	明神 正徳	古谷 広明												
遠山 昭洋	中沢 忠義	中村 正文	西村 幸男	西森 一嘉	浜野 寛樹	弘田 拓磨	藤田 浩二	藤原 敏郎	丸岡 隆雄	味元 博史	宮谷 秀彰	森 章	森下 直哉	森光 信雄	矢野 雅平	山下 国己	山中 祐治	山本 勲	横山 郁夫	大野 正明	岡村 望	片山 裕孝	北村 金徳	国友 勉	楠瀬 博久	渋谷 寿一	高橋 直也		
谷口 勝廣	戸田 佳彦	中平 敦男	橋田 忠徳	藤田 稔	松村 浩二	宮本 利郎	宮本 利郎	森木 浩文	森光 幸治	安並 幸治	矢野 昌道	山下 修	楠岡 一人	堅田 幸次	堅田 雅広	桑原 正	千崎 敏司	田中 英雄	谷 浩司	谷岡 広幸	田村 光徳	寺村 篤	戸田 吉孝	奈路 道程	野島 幸浩	広田 俊二	藤本理理子		

松岡	湖山	藤原	久岡	浜中	西森	西森	西川	中田	中嶋	谷脇	谷本	多田	下元	笹岡	坂本	川島	尾崎	奥崎	岡崎	大川	江西	横山	山中	山崎	村上	松本	前川
幸陽	祐介	和夫	民也	一彦	工	仁	裕之	康洋	和之	擁一	浩統	郁夫	繁男	英樹	博幸	雄成	隆二	哲也	修幸	洋央	斉	博一	浩明	清	政史	正進	信二
浜口	西森	西村	西川	津野	谷脇	谷	高岡	小泉	桑原	楠瀬	川村	奥田	岡村	岡崎	小田	大崎	梅木	安藤	上田	和田	吉井	山崎	山岡	森本	森田	三本	丸岡
賢一	勇志	博文	保男	晃	修	幸広	幸男	智靖	増広	政和	和宏	英雄	弘幸	二仁	彰仁	典成	孝浩	俊一	和正	浩之	省二	雅文	秀男	成男	茂	一郎	理員
楠瀬	楠瀬	大森	大野	大妻	大崎	岡村	伊与木	今橋	市川	池田	昭和五十八年	芝	山崎	芳川	結城	森本	明神	宮尾	松本	松田	堀部	藤崎	福原	福永	原田	浜田	
繁明	一明	学	二男	康二	正弘	耕平	木孝司	清臣	泰彦	佳正		邦彦	和久	濱之	伸二	賢生	利則	竜生	明人	寿久	明弘	新一	靖幸	靖之	浩文	恒広	
鎌倉	片岡	大崎	尾野	梅原	市川	石川	池田	吉田	吉岡	山本	山崎	矢野	森田	本木	明神	松山	政岡	牧野	藤田	浜町	長山	中平	津野	竹内	高橋	国広	
由宜	健児	文章	晃彦	博之	昌孝	浩章	浩二	靖	淳	健一	輝男	忠則	宏明	謙二	忠男	哲雄	広宣	央	俊裕	忠文	庄作	幹雄	善博	佳身	一寛	正信	
斉藤	倉橋	国本	久保地	門田	岩崎	秋本	渡辺	横山	柳瀬	森田	政岡	前田	南部	徳広	戸梶	田中	武田	竹内	竹内	高橋	関本	下元	三宮	佐々木	桑原	楠瀬	
敏明	幸次	高弘	啓介	克彦	博美	修身	昌光	和是	信幸	浩司	慎二	隆志	知久	重太	正和	幸男	幸男	英雄	慶三	国広	靖	健	浩嗣	志郎	秀行	章広	
池田	伊尾木	在木	足利	渡辺	横山	森光	真辺	弘田	浜田	野瀬	野島	中越	中川	戸田	遠山	竹内	古味	国広	北村	上北	片田	山崎	林	橋田	二宮	田村	高橋
良夫	彰憲	正光	和雄	伸二	恵司	一弥	博一	健也	寿男	剛	涼助	将仁	啓介	一伸	公明	和広	優司	昌平	修	達也	秀孝	貴正	勝也	英俊	雅忠	浩幸	
吉岡	柳瀬	森光	森田	森田	三本	水田	保木	浜町	羽方	西村	西村	仁木	奈路	谷岡	竹下	白木	笹岡	楠目	木下	北川	川田	小谷	大崎	植田	岩本	井上	市川
伸仁	章信	清忠	雅史	政夫	正男	孝明	豊	成人	英一	俊一	公男	民雄	栄一	聴史	正	嘉彦	紀雄	勝己	孝二	雅彦	和久	健児	健央	栄之	幸幸	隆	富章
山口	浜村	浜田	長谷川	野村	中山	中村	中沢	津野	田村	谷脇	谷岡	谷岡	谷岡	竹林	竹嶋	田上	高橋	下元	笹岡	桑名	国広	菊地	刈谷	岡崎	猪野	石本	石井
寿喜	忠士	誠人	福弘	浩明	功司	英助	定二	博文	篤彦	哲也	哲也	俊治	正人	義郎	啓介	広明	消広	賢司	覚	勇人	典嗣	宏	誠	隆生	譲	司	洋
増本	正木	藤原	広瀬	久岡	濱田	西森	長野	高橋	小田	北添	川田	片岡	竹本	竹林	竹嶋	田上	高橋	下元	笹岡	桑名	国広	菊地	刈谷	岡崎	猪野	石本	石井
克史	定	和人	三徳	三徳	耕一	喜仁	修	義彦	倫弘	寛	浩幸	正人	真人	義郎	庄二	春仁	和仁	幸雄	倫忠	博貴	昭五十九年	橋本	吉門	松坂	山本	山本	山本
浜口	西森	中山	近沢	谷口	竹田	高橋	下八川	紀夫	芝	桜木	久保	北添	片岡	小野	織田	岡平	岡林	大野	横山	横山	柳野	森本	森田	宮地	美島	松岡	
弘行	齊	博幸	秀行	敏	敏幸	裕行	健一	夫	陸夫	雅弘	陽一	司	和教	秋広	秋広	一意	幸一	明	康生	功起	仲郎	達雄	宏明	明	隆二	雅勝	

岡林孝行	岡崎雄一	井上博文	市川英明	石川太生雄	青木雄二	松坂伸彦	松岡哲由	濱田篤	中島浩行	横山豊	森田芳和	中平祐成	中越雅夫	川田浩	岡崎平	大西博之	大西秀明	石元良明	横田明	山崎義久	森部真介	森田正利	正木勇一	古谷明彦	二見浩	藤沢守人	原賢也
今原隆一	市原浩幸	市川卓水	石川忠司	吉野正剛	山中秀一	山崎宜孝	明神智志	松本剛	松岡孝浩	松岡孝司	前田司	藤本理	福原雄一	平井浩二	濱口洋一	中山幸広	戸梶高広	谷口聖司	瀧平貞行	高橋昌孝	菅野勇人	小松好彦	古島孝幸	久万陽介	片岡一郎	小嶋利広	奥野淳一
井上儀幸	井上澄男	市川潤一	池田秀仁	昭和六十年	森下博章	高野庄司	高野元	古谷博幸	浜町寿治	濱田高德	濱口幸雄	野本等	西山功一	西村光明	戸梶久雄	寺村春彦	谷脇弘一	谷岡洋一	白木昭二	三宮正裕	桑原文司	奥代一也	肉林昭二	大崎真一	柚原則文	岩川真澄	
明神圭介	三浦正文	堀川信孝	古橋勝	原田和仁	橋田雄二	能見宗明	西森和夫	名川長康	中城吉雄	中岡伸昌	田村典一	種田康正	谷脇政美	武市浩二	武田幸三	高野健二	庄野健二	芝敏永	佐竹浩二	笹岡重仁	国広浩司	川島功	刈谷益生	奥田誠一	大崎康彦	梅下栄一	
森光敦	森岡敏男	真辺良治	浜田浩清	野々宮浩暢	西森和史	中山政人	中城重信	津野喜彦	田村陽介	佐々木透	佐々木勝成	斎藤哲也	刈谷真一	加納祐介	金子利彦	門田安信	尾目敏洋	大崎峰喜	梅原信一	井上靖司	石黒豊章	池野雄司	池忠憲	足利幸一	山本和人	山崎弘通	
岡村修一	岡林晴夫	大崎正仁	吉村祐二	吉田明生	藤本幸夫	鈴木一民	岡田勝	大前達也	山本展士	山下幸治	山崎晴彦	野瀬幹雄	西森陽一	中山輝久	高橋征幹	高橋信彦	片田信孝	小野川孝一	小沢直樹	大原一郎	大崎賢一	吉門卓史	吉岡一守	横山政志	山下健一	山崎司幸	
今城正	石山幸実	山本幸浩	矢野毅	森下充晃	岡嶋晃	古谷孝宏	藤村卓司	濱田純一	濱田幸則	野島英夫	西山徹	西森学	西岡健二郎	中島章	戸田和宏	筒井正索	田村亮二	谷山安宏	竹村数文	高橋和史	高野裕士	高野明	偶田勝男	瀬川裕士	芝幹男	桜木栄二郎	奥代憲彦
上領一徳	堅田真一	尾崎祐正	小川正廣	岡本邦夫	岡林勇	大山和彦	大川久二男	足達浩巳	昭和六十一年	古谷拓夫	渊山幸二	藤本一成	藤田晴耕	藤田健一郎	戸田寿史	竹村敏彦	竹田和司	高橋昌也	高橋敬寿	高野明	偶田勝男	佐藤賢一	坂本秀孝	門田義人	小野裕次	奥代憲彦	岩本雅春
上村幸宏	掛水正也	岡本秀明	岡本憲明	大田一司	氏原純男	伊勢本滋	石元幹夫	石川宇弥太	森田雅治	森田昭彦	明神和久	松岡富雄	堀田富士人	原浩二	濱田稔	野島幸生	西森秀樹	西元高樹	西村一也	西岡正人	中山真二	近沢延匡	田村千賀夫	谷脇真治	竹内裕	芝勝也	北岡克敏
尾中善明	岡崎寛明	大崎哲也	大石誠	大井啓義	石川泉	山中栄男	山中功一	山崎光夫	山崎正宏	森田穂隆	真辺祐介	細木等	藤村光一	濱田政孝	西森力	長山楨久	田村楨久	谷口雅彦	谷岡洋臣	武内道則	下村卓也	三宮卓也	佐竹真彦	笹岡浩二	黒原博和	蔵下佳史	木原幸彦

久保	川村	片田	小野	奥田	小笠原史大	岡田	大西	大高	蛭子	浦中	梅木	馬詰	泉	横山浩一郎	山田	山崎	山崎	福留	濱田	浜田	中平	富田	寺田	田村	竹下	杉野	久保	
光賢	千雄	祐二	博一	敏	由高	由高	祥隆	一明	賢也	賢也	和孝	健	淳	一郎	哲也	学	弘一	英夫	俊彦	和男	泰道	輝明	明広	貴幸	正昭	敬介	修一	
西川謙一郎	鍋島隆浩	中城朗	戸田征司	辻信昭	田村里志	谷脇義仁	下園晃弘	斉藤宗一	川添剛	川崎秀明	岡崎昭二	大崎敏宏	横山正和	山下弘明	森下誠司	松田治彦	広瀬真治	早淵浩正	西明德	永野浩史	中脇竹一	中野英幸	千頭修	竹本裕一	竹下光有	洪谷真佐臣	笹岡克文	
竹内直人	高橋浩二	下元修治	笹岡健	酒井善仁	斉藤滋	後藤英人	黒原雄二	菊池尚	堅田喜浩	小野裕司	岡村武朋	大西誠	江淵週一	枝重誠	伊藤孝行	市川英身	山崎貴裕	山岡光生	安並良生	森部高央	松本宏幸	松岡卓治	前田勉	前川大八	野島卓二	西森一暁	西村映二	

高知県立須崎工業高等学校同窓会会則

才一章 総則

- 才一条 本会は高知県立須崎工業高等学校同窓会と称する。
- 才二条 本会は会員の親和、母校の隆盛を図るを目的とする。
- 才三条 本会は本部を母校に置き、正会員多数の地域（職域）に支部を置くことができる。

才二章 事業

- 才四条 本会は才二条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 会報並に会員名簿の発行及び配布
 - (2) 母校の発展に関すること
 - (3) 会員の親和に関すること
 - (4) その他目的達成のために必要なこと

才三章 会員

- 才五条 本会の会員は次の者をもって組織する。
- 1、正会員
 - (イ) 高知県立須崎工業学校を卒業した者
 - (ロ) 高知県立須崎工業高等学校併設中学校を卒業した者
 - (ハ) 高知県立須崎工業高等学校を卒業した者
 - (ニ) (イ) (ロ) に在籍した者で会長が推薦し理事会にて認められた者
 - 2、準会員
 - 3、特別会員
- 高知県立須崎工業高等学校在校生

才四章 役員

- 才六条 本会に次の役員を置く
会長一名・副会長二名（内一名は本部事務局長を兼ねる）・会計一名・常任理事若干名・理事若干名・監事二名
- 才七条 役員の選出は次の通りとする。
- (1) 会長、副会長、会計、監事は理事会において選出する。
 - (2) 理事は総会において選出された者および母校在職正会員とする。
 - (3) 常任理事は理事会で選出する。
- 才八条 役員は次の通り定める。
- (1) 会長は本会を代表しその運営を統括する。
 - (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、その職務を代行する。
 - (3) 事務局長は本部事務局を主宰し、本会の事業を執行する。
 - (4) 会計は本会財政の運営に関し、予算収支の企画および収支の執行に当る。
 - (5) 常任理事は本会の常務を執行する。
 - (6) 理事は本会の重要事項を審議する。
 - (7) 監事は本会の会計監査に当る。

才五章 会議

- 才九条 本会に名誉会長を置き母校校長を推戴する。
- 才一〇条 会長が必要と認めるときは、理事会にはかり顧問および相談役を置くことができる。
- 才一二条 役員任期は二ケ年とする。但し再任は妨げない。補欠のために就任した者の任期は前任者の残余期間とする。
- 才一二条 本会の会議は総会、理事会および常任理事会とする。
- 才一三条 総会は二年毎に開催し、必要に応じ臨時に開催する。
- 才一四条 総会は会長がこれを召集し、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは議長が決定する。
- 才一五条 理事会は次の場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めるとき
 - (2) 理事の過半数の請求があつたとき
- 才一六条 理事会は総会に次ぐ決議機関で次の事項を決定する。
- (1) 本会の規約の作成変更および役員選出
 - (2) 収支予算ならびに決算
 - (3) 事業の計画およびその他重要な事項
- 才一七条 常任理事会は会務の迅速円滑な執行をはかるため、総会および理事会の決定にもとづき、直接業務に必要な事項を審議し実行する。常任理事会の決定および実施事項は理事会に報告し、承認を得なければならぬ。

才六章 事務局

才一八条 本部に事務局を置き、事務局長が統括する。

才一九条 事務局の構成は次の通りとする。

- 1、事務局長
- 2、会 計
- 3、母校在職正会員

才二〇条 事務局は総会、理事会、常任理事会の決定に基づき必要な会務を執行する。

才七章 会 計

才二一条 本会の財政は会費、入会金、寄附金その他の収入によつてまかなう。

正会員は会費（終身会費）を納入しなければならぬ。

会費（終身会費）は一万円とする。

入会金は入学時二千円を納入するものとする。

才二二条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

才二三条 本会は会計年度末に会費納入者一名に付二〇〇円の割合で支部に対する配分金を計算し、翌年度六月末までに還元する。

附 則

昭和二五年一月二〇日施行の本会則は、昭和四三年三月一日改正、昭和五一年八月一日改正、昭和五六年八月九日改正する。

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。(第二号十八頁の様式)

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなく記入下さい。

手数料は次のとおりです。

- 卒業証明書 一通につき二〇〇円
- 成績証明書 一通につき二〇〇円
- 単位修得証明書 一通につき二〇〇円

送り先〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室
電話(〇八八九)④一八六一

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編 集 後 記

第十二号の会報を、お送りいたしました。

各支部の役員、並びに会員の皆様には、原稿をお願いいたしましたところ、心よく原稿を送っていただきありがとうございます。

会報の内容については、当初できるだけ会員の近況や感想等の寄稿を載せる予定でしたが、母校行事主体の会報となり反省いたしております。

今後につきましては、良い記事がありましたら事務局まで、ぜひ直接お送り下さい。次の会報に載せたいと思います。

尚印刷につきましては、須崎市内の笹岡印刷所さんにお願ひし、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。
事務局編集委員

昭和六十一年十一月二十日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校
同窓会事務局

印刷所 高知県須崎市東古市町二番十六号
有限会社 笹岡印刷所